



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを「職員の仲間」という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第35号

2021年11月18日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

生路小学校 佐藤SP活動初日

11月18日、大学4年生の佐藤SPが生路小学校の新たなウィークリーSPとして、仲間に加わってくれました。佐藤SPは、去年は片葩小学校の「わくわく算数教室」に、今年は藤江小学校の「夏休み補充学習会」に参加をしてくれていました。「教員採用試験や実習も終わったので、やりたかったウィークリーSPにぜひ参加したいです！」とのことで、母校である生路小学校での活動が決まりました。

昨年、初めて会った佐藤SPは、学校現場ではまだまだ不安な様子でしたが（それでも、子どもたちには笑顔で、根気よく接してくれていました）、一年経って今年の夏休みに会った時は、見違えるほどしっかりした姿だったことが、とても印象的でした。きっと、教育実習や教員採用試験を経て、勉強を重ねたり現場感覚を養ったりしてきたのでしょう。一年でここまで変わるのかと、驚いたことを覚えています。

生路小学校は翌日が学習発表会ということもあり、どの学年もその準備や練習をしていました。佐藤SPは一年生の練習を見ていました。ほほ笑みながらうなずいたり、拍手をしたり、リズムに乗ったりと、終始優しい表情でその様子を見守ってくれていました。そんな優しい表情で見てくれる先生がいたら、子どもたちも安心して取り組みます。「頑張ろう」「やってみよう」と勇気が出ます。「大放課になったら、子どもたちと運動場で走ってきます！」と話していました。自分たちのことを見守ってくれる人がある、一緒に遊んでくれる人がある、話にじっくり耳を傾けてくれる人がある。幸せな事実です。学習の支援だけでなく、こうした「心の支援」をSPさんたちは、みんなしてくれています。意識的に、というよりは無意識で、自然にやってくれているSPさんが多いです。（もちろん、意識して動いてくれている時たくさんありますが）今日の佐藤SPのように、どのSPさんもみんな優しい表情で学校に来てくれます。どのSPさんも、びっくりするほど子どもたちの話をじっくり聞いてくれます。そうしたSPさんに、救われている子どもたちもいます。SP活動って、素晴らしいな……そうした姿や瞬間を見る度に、私の心も温かくなります。

佐藤SPは、4月から横浜市で勤務することが決まっているそうです。新天地での仕事、プライベート含めて、きっと最初は慣れないことばかりで大変だと思います。「私が、4月から学校で働いているなんて……なんだか想像できません。」と言いながらも、きっと佐藤SPなら、また一年でさらにパワーアップしていることでしょう。落ち着いたら、またぜひ会いたいなと思います。夏休みや冬休みに、よかったらSP活動に顔を出してください。残り半年、SP活動でぜひ充実した時間を過ごしてもらえたらと思います。4月からの新生活に向けて、一つずつ安心感やワクワク感を高めていってください。

